

# 新・神之池スタイル

## カラダとココロが元気になる公園

まちのシンボルである神之池。皆さんは最近、訪れたことがありますか？ 時代により、季節により、利用目的によりさまざまに表情を変え、いままた新しい魅力が加わろうとしています。今回は、神之池緑地の整備について紹介します。



### 人と自然をつなぐ整備計画

神栖市の名前の由来ともなった神之池。その周辺に整備された神之池緑地は、水辺でランニングをする人、グラウンドゴルフを楽しむグループ、広場で遊ぶ親子など、市民の憩いの場となっています。いま、その神之池緑地で進められているのが「まちのにぎわいづくりプラン」による整備事業です。

「スポーツ関連施設を整備する、体験拠点整備エリア」と、遊具やカフェを整備する「公園施設整備エリア」を中心に、神之池らしさを生かしながら整備を進めていきます」

と話す政策企画

課の木内崇仁さん。

「カラダとココロ、

そしてまちが元

気になるにぎわいづくりの拠点。広

大な神之池緑地が、誰からも愛され、もっと訪れたい場所になる場所が変わろうとしていきます。



木内さん

### 神之池、変貌の歴史

神之池は市中心部のオアシス的存在ですが、実は以前、文字どおり「砂丘のオアシス」だったのをご存じですか？ 驚くほどの変貌を遂げてきた神之池。その歴史を知ると、

見慣れた風景が新鮮に感じられるかも。ちょっと振り返ってみましょう。

その昔、いまの鹿島港がある辺りには鹿島砂丘が広がり、豊かな水をたたえた神之池は農業用水として田畑を潤し、池での漁も盛んでした。気候が温暖で風光明媚なことから、大正時代には別荘地・保養地として「鹿島文化村」「鹿島理想郷」が造成され、砂丘を滑るサンドスキー場もありました。

やがて昭和40年代に鹿島開発で埋め立てられ、神之池の姿は一変します。かつて周囲約8キロメートル、三角おにぎりの形をしていた池は、周囲約4・4キロメートル、形は東

西に細長く、面積は約7分の1となりました。そして、昭和48年に池の周辺を神之池緑地として整備。その後、スポーツ施設や遊具などがどんどん増え、今ではレジャーパークとしても親しまれています。

### スターバックスコーヒーがオープン

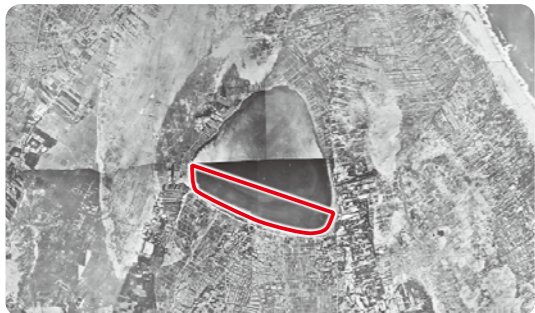
それでは、現在整備が進んでいる「公園施設整備エリア」から紹介します。一番の目玉は、5月8日にオープンした「スターバックスコーヒー 神栖神之池緑地店」。これはまちのにぎわいづくりプラン策定の際に行なったワークショップでの事前アンケートで、「カフェなどの休憩飲食機能」への要望が80%と突出して多かったことから整備計画に取り入れたもの。公募によりスターバックスコーヒーの出店が決まりました。同店の公園店舗は、都内の上野恩賜公園や新宿御苑をはじめ、富岩運河環水公園(富山市)、浜松城公園(浜松市)、蓮華寺池公園(藤枝市)など全国各地に広まりつつあります。神栖神之池緑地店は県内初の公園店舗とあって、開店早々注目の的。店舗の特徴について、ストア



県内初、公園にあるスターバックス コーヒー



テイクアウトすれば公園全体がカフェに



三角おにぎりの形だった神之池(昭和22年 米軍による航空写真) 赤い枠は今の神之池



鹿島文化村の別荘(大正時代)「文化財かみす第25集」より